

公益財団法人ジオパワー学園設立準備財団

令和5年度 事業計画書

(令和4年8月1日～令和5年7月31日)

I. はじめに

現代の日本社会において、電気、ガス、ガソリンなどのエネルギーは欠かせないものとなっているが、エネルギー資源が乏しい我が国のエネルギー自給率は12.1%(2019年)であり、その多くは海外から輸入した化石燃料に依存している。2010年時点では原子力による供給も増加していたものの東日本大震災による稼働停止による電力不足が生じたこともあり、我が国の緊要な課題となっている。

この状況を踏まえ、公益財団法人ジオパワー学園設立準備財団(以下「当財団」)では、再生可能エネルギーのうち特に温室効果ガス(CO₂)の排出量が少なく、クリーンで24時間安定供給が可能な地熱エネルギーに着目し、長期的に我が国の自給率向上に繋がる地熱採掘技術者育成の学校を開設することを目的として設立した。

日本では、掘削技術に特化した学校は設立されたことはなく、今回「学校法人ジオパワー学園」は日本初の掘削技術者の育成校となる。当該技術者の育成は、近年の掘削技術者の高齢化及び若手の人材不足等による「地熱掘削技術」を守り、次世代への伝承に貢献するため地熱業界からも強い要望がある。

また、専門学校には全生徒収容可能な学生寮を建設し、開設により周辺地域の学生の転居等が発生し、近隣地域の活性化が見込めることから地域からの応援の声を受けており、地域活性化への貢献も兼ねている。

II. 基本方針

2022年8月1日から2023年7月31日までの事業として柱となるのは以下の6点である。

(1) 地域社会と連携交流

各事業の具体的方針および施策は下記の通りである。

(1) 地域社会と連携交流

① 地熱シンポジウムについて

一般的に再生可能エネルギーや新エネルギーという単語から連想するのは太陽光発電であり、地熱発電をイメージする人は少ないかと思えます。

しかしながら、我が国は世界で第3位の地熱資源量有する地熱資源大国であり、太陽光発電と比べてもクリーンで24時間安定供給できる地熱発電は将来性のあるエネルギーであると考えております。

また、我が国では「温泉」という方法で地熱資源を古くから利用しており、身近な存在でもあります。

もちろん、地熱発電にも多くの課題もあり、一般的な認知度もまだまだ

低い状況ではありますが、そういった地熱発電を広く認知してもらうために、「(仮称)地熱シンポジウム」の開催を計画しております。

② 今後の予定

現在のコロナ下の状況で会場での大規模な開催が困難な状況ではあり、オンライン上での開催を予定している。